



ヤマケイ情報箱「日本の滝」

①東日本661滝, ②西日本767滝

北中康文・著

山と溪谷社・発行, AB スモール判

①東日本661滝, 432p, 3,990円(税込)

2004年9月発行, ISBN4-635-06257-0

②西日本767滝, 496p, 4,410円(税込)

2006年8月発行, ISBN4-635-06258-9



「日本の滝②西日本767滝」が刊行され、日本の滝の図鑑が完成した。「日本の滝①東日本661滝」が発行されてから2年の月日が流れ、待たれていた西日本編が刊行された。著者の写真家・北中康文氏一人のファインダーで見た、日本の滝1,428滝がフルカラーで2冊の本にまとめられている。写真は、美しい写真ばかりであり、ここに行ってみたくらいという思いをかき立てるものがある。さすがプロ写真家の作品集である。ぜひ手にとって、ひと目ご覧いただきたい。

この本をここで紹介したのは、この滝の写真集が、その滝の成り立ちに地質が大きく関与しているという、新しい観点で編集されているためである。地学に少しでも興味のある人なら、気がつくことだが、これまでそういう観点で作られた滝の写真集は見たことがない。また、一般の書籍でこれだけ地質のことが取り上げられているのも珍しい。

東日本編では、滝を作る地層・岩石についての情報が、主にGSJの複数の研究者によって解説されている。多くの滝の地質解説が示されているとともに、13の地質のコラムには、5万分の1ないし20万分の1地質図幅を基にして作られた立体地質図が使われ、滝がどんな地質・地形の場所にできているか一目瞭然となっている。東日本編の滝の大半が第四紀火山に形成されていることから、コラムの著者は火山の研究者が中心となっている。

一方、西日本編では、東日本編とは異なり、一人のGSJの研究者によって一貫した観点ですべての滝の

地質が解説され、巻頭には滝を作る主な地層について日本の地質全体から解説が加えられている。西日本編では、滝の地層が、付加体の岩石や白亜紀-第三紀の火砕流堆積物からなることが多いことから、このようなスタイルの違いになったのであろう。

ここで、地質図幅のアウトカムの観点から本書を考えてみたい。産総研では、公的研究機関として、様々な研究成果が社会の要請にどのように応え、役に立ったかについて、中長期的なアウトカムの視点をもって研究を推進している。

社会の要請は多様であり、安全安心な社会の構築や産業立地に直接結びつくものはもちろんのこと、これを実現するための基礎的な自然の理解への貢献や、人の知的的好奇心や心身を癒す効果まで含まれる(産総研技術情報部門・三菱総研, 2004)。

本書の場合、滝の地質の判読やコラムの執筆に産総研の地質図幅が用いられており、地質図幅のアウトカムとして、地学のリテラシーの向上につながっていくことが期待される。この本の発行をきっかけに、今後、各滝の説明板やパンフに地質の情報が記載されたり、ジオパークなどの実現へと発展することを望んでいる。(富樫茂子)

文 献

産総研技術情報部門・三菱総研(2004):産業技術総合研究所におけるアウトカム事例調査(2), 83p.

<http://unit.aist.go.jp/techinfo/report/h16/04002.html>